

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	子ども家庭福祉		
担当者(Instructors)	伊藤 龍仁	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

現代社会における少子化や子ども虐待問題等を取り上げ、子ども家庭福祉の現状と課題、及びその動向を把握する。また、子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を学び、子どもの権利と人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系等を理解する。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	各回テーマごとの対面実施する授業に加え、3回の小テストと課題レポートの提出を求める。授業の実施方法は、①テーマごとに設定する3分thinkingに取り組む、②対面授業又は配信された動画を視聴する、③テキスト該当ページを精読して理解する、④アウトプット・ノートを作成して課題提出する、⑤疑問点等はプラットフォームから質問する、という一連の流れで構成される。尚、社会状況によっては一部の授業をオンラインで実施する。その際の提出課題への添削及びコメント記入並びにオンライン・プラットフォームからの質疑応答を受け付けることで双方向性を確保する。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	子ども家庭福祉を学ぶために授業ガイダンス	子ども家庭福祉を学ぶためにオリエンテーションを行う。講師の経歴と自己紹介を通して子ども家庭福祉の実践の一端を紹介する。授業の受け方や内容、評価、小テスト、課題レポートを説明する。	□
第2回	CH1「現代社会と子ども家庭福祉」	少子高齢化を取り上げながら、子どもと家庭を取り巻く環境の変化と生活問題を考察する。	□
第3回	CH2「子どもの人権」	子どもの権利運動と近代の子どもの権利の動向、子どもの権利条約を取り上げる。	□
第4回	CH3「子ども家庭福祉の成立と展開(1) 欧米の歩み」	イギリスとアメリカの子ども家庭福祉の歴史を取り上げる。	□
第5回	CH3「子ども家庭福祉の成立と展開(2) 日本の歩み」	日本の子ども家庭福祉の歴史を取り上げる。	□
第6回	CH1～CH3のまとめと小テスト	チャプター1～チャプター3のまとめと補足説明をして小テストを実施する。	□
第7回	CH4「子ども家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設」	子ども家庭福祉の法体系、行財政、機関と施設を取り上げる。	□
第8回	CH5「子育て支援・次世代育成支援と保育施策」	子育て支援と次世代健全育成支援、保育施策の現状と課題を取り上げる。	□
第9回	CH6「母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策」	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策の現状と課題を取り上げる。	□
第10回	CH7「子ども虐待とDV防止施策」	子どもへの虐待とDV問題の現状とその防止施策を取り上げる。	□
第11回	CH4～CH7のまとめと小テスト	チャプター4～チャプター7のまとめと補足説明をして小テストを実施する。	□
第12回	CH8「社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策」	社会的養護の体系、その現状と課題を取り上げる。	□
第13回	CH9「障害のある子どもへの福祉施策」	障害・障害児の定義と障がい観、障害児福祉施策とサービス、障害児保育、特別支援教育を取り上げる。	□
第14回	CH10「心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援」 CH11「子ども家庭福祉の専門職と連携」	心理治療を必要とする子どもと非行問題を抱える子どもへの支援の現状と課題、子ども家庭福祉を担う専門職や機関等との連携を取り上げる。	□

第15回	全体のまとめと小テスト	全体のまとめをして小テストを実施する。	<input type="checkbox"/>
------	-------------	---------------------	--------------------------

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業テーマに該当するテキストの3分thinkingに取り組みノートにまとめるとともに、テキストを概読して関連資料を収集するなどの事前学習を2時間程度行う。授業後には使用した配布資料・シート・小テスト等はすべてポートフォリオに整理するとともに学習の要点をアウトプット・ノートに整理する事後学習を2時間程度行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出課題とするアウトプット・ノートを添削してコメントを記入するとともに採点して返却する。小テストは採点後に返却し、模範解答を開示する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	子ども家庭福祉の学びを通して幼稚園教員・保育士になるための免許と資格に必須の知識を身につけることができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	子ども家庭福祉の学びを通して現代の福祉・保育の現場に存在する多様な問題や課題に正面から向き合うための視座と思考力を習得できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

提出課題、レポート課題、参加姿勢から総合的に評価する

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	『みらい☒ 子どもの福祉ブックス 子ども家庭福祉』 (株) みらい	9784860154998
2	『保育福祉小六法』 (株) みらい	9784860155421
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		